

## 演題：歯科領域に必要なカラーマネジメント

カラーマネジメントとは、スキャナ、デジカメ、モニター、プリンタなど異なるデバイスごとの特性が記録されたプロファイルを用意し、それに従ってカラースペースを変換することで、デバイス間での色の整合性を図ることをいいます。簡単にいうと、あるカラースペースから別のカラースペースへ、なるべく見た目の色が変わらないように変換する技術のことです。化粧品、自動車、出版、衣料、建築などの業界で用いられているカラーマネジメントシステムは、歯科領域にも必要と考えています。

チェアサイドでは口腔内の正しい色観察、ラボサイドでも補綴物を製作する上で目指す色再現の精度を上げることに活用できます。それには、見た目の目指す色が正しく撮影され、正しくモニターに表示されなければなりません。この達成には、適切なカメラの撮影、照明、色評価できる室、キャリブレーション対応液晶モニター、キャリブレーター、カラーマネジメント対応イメージビューワーなどが必要となります。なかでも、キャリブレーション対応液晶モニターとキャリブレーターは必須の機材と考えています。それは、目指す色を正しく表示するには、各デバイスの色再現域やカラースペースの定義が記述されたプロファイルとCMM (Color Management Module) が必要で、そのプロファイルを参照しながらCMMが色変換の計算を行うのですが、正確なモニタープロファイルを作成するには優れたキャリブレーターが必要だからです。

今回は、歯科技工士の視点からカラーマネジメントの必要性を述べ、それを達成するための適切な写真撮影と、ラボサイドにおける画像観察環境について述べ、皆様のお役に立ちたいと考えています。